

熊本地震の復旧が急がれるなか、先日の九州、島根を襲った豪雨は私たちに大きな衝撃を与えた。

気象情報会社、ウェザーニューズが発表した今年7月～9月のゲリラ豪雨の予想発生回数は、過去3年の平均と比べると3割増の7043回。驚きと同時に明日はわが身と痛感する。

地球温暖化で加速する世界的な気象災害。40度～50度を超える猛暑が続く地域では、山火事が発生。南極大陸では観測史上最大級の重さ1兆トンの巨大な氷山が分離し、一層の海面上昇の可能性があるという。

こうした現象は遠い世界の出来事で人ごとだと考えてはいないだろうか？ 地球はひとつにつながっている。危機感共有すべきだと思う。

日本には天災と戦ってきた歴史がある。それだけに、先

想像力を育み次世代に未来を



祖代々、自然のもたらす脅威を前に、人間は弱いものであることをよく知っている。そして、この異常気象は天災を超え、もはや人災としての責任があることも知っている。

さて、今こそ「想像力」が何より大切であろう。私たち一人一人の決断と強い意志を持った行動を「持続」することで、本当に恐ろしい温暖化の結末を食い止められるかもしれないからだ。

恩師のバリトン歌手、中山悌一氏はこう仰った。歌い手は、老若男女あらゆる立場の人の心を理解できねばならない。でなければ、うまくても決して人の心を打つ歌を歌え

ない、と。

われわれはいま、戦後の焼け野原から先進国となり高等教育を受けられるようになった理由を改めて考える必要があるのかもしれない。想像力を育て、異なる物や人を受け入れ、共存共栄できる人間を育てなければならないのではないかと感じる。

今の日本で子供たちは何を目指し、どこに向かい生きていくのか、この一番大切なことをどこで誰に学ぶのだろうか。大人の責任は大きい。

(さとう・しのぶ＝声楽家)

＝毎月第3金曜日掲載

